高瀬神社 社報

越中一宮

第66号

越中一宮 高瀬神社
令和２年７月１日
https://www.takase.or.jp/　撮影：南部スタジオ

『ウイルス感染予防対策』

宮司　藤井秀嗣

昨日、お正月から六月までの半年間の罪穢（つみけがれ）を祓う「夏越（なごし）の大祓（おおはらえ）」を奉仕しました。今年は特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大という大変な事態となっていることもあり、ご参列のみなさんとともに疫病退散も強く願いながら茅の輪をくぐりました。

現在、国内の感染者数は減少傾向にありますが、東京都など人口の多い都市では感染が継続しています。まだまだ警戒心を緩めず感染防止に努めなくてはいけません。

「三密」を避ける、マスク着用、手洗い励行など、これまで各自で感染防止策を講じてこられたと思います。神社としても、柄杓を持たず手水が使えるようにしたり、拝殿の着席位置を広げたり、また社務所各所にアルコール消毒液を設置するなど、できる限りの対策をして、参拝者をお迎えしています。「新しい生活様式」を実践し、神社が感染源とならないように、また参拝者、職員ともに罹患することがないように、これからも気を配りながら、安心してお参りしていただけるようご奉仕して参ります。

我が国最古の歴史書である日本書紀には、第十代崇神天皇五年に疫病が流行し、人口の大半が死に至ったと記されています。また、第四十五代聖武天皇の御代には疫病の流行をはじめ、天候不順による飢餓、大地震などが度々発生し、これを鎮める手段として、諸国の神社に幣帛を奉られたり、国家的大事業である東大寺大仏建立に着手されたり、神仏の威霊により天地が安泰となることを祈られました。また、神仏に頼る機運は朝廷に限らず、庶民の間でも高まり、疫病神を追い祓う民間の信仰（節分など）も盛んとなりました。この時代からすでに国としての対策が施され、各分野（政治・経済・医療・宗教）において事態の終息と民衆の安寧が図られてきましたが、疫病の根本的な治療法が確立されていない状況において、人々の心の安寧を得る手段としては、神仏に祈ることが重要だったと考えられます。

この度も疫病予防の妖怪「アマビエ」、富山では「クタベ」など、全国各地でご当地妖怪が注目されました。今、話題の「アマビエ」は本物ではないという報道がありました。元々は名前も姿も今のものとは違っていて、書き写していくうちに変化し、現在の名前、姿になったということでしたが、要は名前や姿は重要なことではなく、疫病神の接近という差し迫った状況に「藁（わら）にも縋（すが）る」思いで、真剣に書き写した切実な気持ちが籠っているということが重要なのではないでしょうか。

先日、ある方から感染症予防策について、「ナチュラル・キラー細胞という凄い細胞が我々の体の中にあって、この細胞を活性化することによって予防できる」と教えていただきました。この細胞は全身をまわって、がん細胞やウイルスに感染した細胞などを殺す働きがあるということです。我われの持っている免疫力を向上させることで、この細胞が増殖し、活性化されて、がんや感染症にかかりにくくします。その免疫力を高める方法が、なんと「笑う」ことだそうです。笑うだけで、血液中の細胞の働きが強くなるということですから、すぐにでも実践して免疫力を高めていただきたいと思います。

当神社の御祭神「大国様」の御顔は、いつもにこにこ顔であり、「和来（わらい）」の神様です。また、医療の神でもありますので、今こそ大国様の御加護をいただいて、免疫力を大いに高め、ウイルス感染予防に努めていただきたいと思います。「わらう門には福きたる」ということわざは、科学的に裏付けされています。何かとつらい日々ではありますが、家族みんなで大いにわらい、福の神（大国様）から幸福をいただきましょう。

祭事暦

春季祭（大祭）

四月十日午前十時より恒例の「春季祭」を斎行し、再び巡り来た春を喜び感謝を捧げるとともに、世の平安と五穀豊穣、また、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、規模を縮小するなど過去に例のない形となりましたが、祭儀は厳粛に、滞りなく執り行いました。

御神山「牛嶽」例祭

六月六日午前十時より、「牛嶽」山頂に鎮座する牛嶽社に於いて、例祭並びに開山祭を執り行い、今年も清らかな水や緑など、山からの豊かな恵みと、入山者の安全を祈願しました。

※牛嶽社は標高九八七メートルに鎮座し、当神社の奥宮と称され、牛に乗った「大国主命像」が祀られています。

八乙女山風神堂例祭

六月七日午前十時より、八乙女山風神堂例祭を斎行しました。風神堂は、強風「井波風」が吹き出すという「風穴」の傍に祀られています。

「井波風」は、春の訪れを知らせてくれる反面、古来より風害をもたらしてきました。今より約千三百年前の養老元年（七一七）、越前の僧 泰澄が八乙女山に止観寺を建立した際、人々の懇願により、風神をお祀りするお堂を建てたことが始まりとされています。

献花祭

六月十三日午後四時より、献花祭を行いました。当日は、地元の高瀬遺跡（国史跡・平安時代初期の荘園の役所の遺構）の菖蒲の花が神前に供えられ、高瀬遺跡保存協会の谷口信夫会長・玉井順一副会長が玉串拝礼を行いました。

祈年穀祭（大祭）

六月十日午前十時より、農作物が虫害の影響なく豊作になるよう祈念する、祈年穀祭を斎行しました。

祈年穀祭は、飛鳥時代、深刻な病虫害が発生し、この事態を重く見られた天武天皇が勅使を遣わされ、病虫害の終息と豊作を祈願されたことが始まりと伝えられています。

祭典では、古式に則り忌火鑽（いみびき）りし、宮司の祝詞奏上に続き、砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛が供えられ、本年の参向使 となみ野農業協同組合常務理事 土田英雄氏によって祭文が奏上されました。その後、社標前に奉仕員・参列者が整列、灯されたかがり火に拝礼し、本年の五穀豊穣を祈念しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の願いが籠った祈願符をかがり火にくべ、その鎮静化と罹患者の回復を祈念しました。

六月十一日、大神様の御神霊と御神火が砺波地区の各農業協同組合を巡行しました。各農協においてご代表以下職員のお出迎えを受け、本年の五穀豊穣を祈念しました。

行程

なんと農業協同組合

福光農業協同組合

いなば農業協同組合

となみ野農業協同組合

献穀田だより

「御田植祭」斎行
奉耕者　谷川　徹氏
井波地域農業者会
（岩﨑　修　会長）

天候に恵まれた五月十七日、南砺市の南山見交流センター前の献穀田（富山県神社庁共催）で「御田植祭」を斎行しました。

早乙女姿の女子生徒五名が、谷川徹氏より「コシヒカリ」の苗を受け取り、心を込め丁寧に植えられました。

本年は、農業関係者・保護者を始め井頭克彦富山県神社庁副庁長、長谷川孝徳砺波支部長にもご参列頂きました。

早乙女奉仕者

北山　英夏さん（高校生）
谷田穂乃香さん（中学生）
前田琴々美さん（中学生）
野村　史来さん（中学生）
高橋　奏乃さん（中学生）

人形感謝祭

七月二十五日午前十時より、古くなった人形に感謝とお別れを告げる「人形感謝祭」を行います。

当日は、慣れ親しんだ人形に感謝の真心を込めて、境内の奉斎場にご自身の手で綺麗に飾ってみては如何でしょうか。

祈願料　手提げ袋一袋　三千円～

受付

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、本年に限り、前日の二十四日午前九時～午後三時及び当日の二十五日午前九時～午前十時まで受付致します。

第二十回 人形展 ～一期一会～

…こもれびの杜に咲く―いけばなと人形たち…

七月二十四日（祝）～七月二十六日（日）
午前十時～午後四時

会　場　髙瀬神社平成殿

入場料　無料

数々の創作人形といけばなが神社を彩る「人形展」を行います。県内外の作家が持ち寄った創作人形との一期一会をお楽しみ下さい。

『大輪あさがお展』開催

日時　八月八日（土）
～八月十日（月・祝）
主催　南砺市あさがお会
（森田光正会長）

本年も、お盆前の三日間にわたり、境内において「大輪あさがお展」を開催します。大輪朝顔は、花径の大きな朝顔で、明治以降栽培が盛んになり、現在でも広く愛されている夏の風物詩です。

期間中、会員の方々が丹精を込めて育てられた色とりどりの朝顔が境内を彩ります。是非ご来場下さい。

新型コロナウイルス感染症対策について

当神社では、二月二十九日より、毎朝の日供祭と併せて「新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭」を斎行し、一日も早い事態の終息を祈念しています。

また、お参りの皆様の安全を考慮し、左記の通りの対策しております。ご参拝の折は、ご理解ご協力の程、お願い申し上げます。

- 手水舎では、柄杓使用を見合わせ、流水式にて対応しております。
- 境内・屋内各所にアルコール消毒液を配置しております。手指の消毒にご協力下さい。
- ※各所定期的に消毒も行っています。
- 祭典、祈祷時は換気の為、拝殿他の扉を解放しております。
- 職員はマスク着用にて対応しております。ご参拝の方もなるべくマスクの着用をお願い申し上げます。

アマビエのぬりえ

※神社で作成した
妖怪「アマビエ」のぬりえ

ご参拝の折は
ご自由にお持ち下さい。

漢詩「題 越中一宮」

題越中一宮

勸學院落猶嚴然
黎民康寧拜神前
巨木緑縟散居標
日月晟晟永代傳

令和二年水無月　　八秩　有二　啓邨作

「南砺吟道大会」ご寄稿　門田忠行氏

越中一宮に題す

勸学の院落　猶　厳然なり
黎民　康寧　神前に拝む
巨木　緑縟　散居の標
日月　晟々として　永代に伝えん

（大意）
一族の学問を進める学校としての神社は、日頃から神秘的な祈りの場として厳然としている。民衆は穏やかな世と健やかな人生を祈って拝んでいる。大きな杉や樹木は生い茂り、地域の道しるべとなっている。常日頃から明るい未来を期して鎮座しており、後世まで永久に伝えて欲しいものです。

漢詩「題越中一宮」の作詞に当たって

国造りの神を祀る由緒ある古社で、二千年の歴史を大切にし、益々の発展を祈って「七言絶句」にする。

※本来、右の漢詩は、近隣にて開催される「南砺吟道大会」にご寄稿され、ご披露されるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により同大会の開催が見合わせとなりましたので、ここにご紹介させて頂きます。

戌の日（安産祈願）

7月　6・18・30日
8月11・23日
9月　4・16・28日
10月10・22日
11月　3・15・27日
12月　9・21日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。

奉納

○「境内剪定作業」
小矢部市津沢
株式会社　越路ガーデン
代表取締役　西尾　倫顕　殿

※毎年ご奉仕頂いており、本年も爽やかな境内になりました。

○「除菌水」
南砺市久戸
有限会社　丹保建設
代表取締役　鹿熊　秀夫　殿

○「玉ねぎ」三箱
勧学院営農組合　殿

辞令

五反　日乃
米田　亜依
畠山　愛梨

令和二年七月一日
巫女を命ずる

編集後記

感染症の第一波が鎮静化していますが、まだまだ予断を許さない状況です。緊急事態宣言時の気持ちを緩ませる事無く、感染症に注意した生活を心がけると共に、一日も早く事態が鎮静化する様、ご祈願ご奉仕申し上げたいと思います。

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。
（〇七六三）八二－〇九三二

社報バックナンバー

当神社ホームページでご覧頂けます。

【表紙写真】　髙瀬稲荷社

発行日　令和二年七月一日
発行所　越中一宮　高瀬神社社務所
〒九三二-〇二五二
富山県南砺市高瀬二九一
TEL(〇七六三)八二-〇九三二
FAX(〇七六三)八二-三二〇四
編集人　魚岸　一弥
印刷所　牧印刷株式会社

いつも幸せを祈ってきたこの場所で　今日、結婚します。
どうか神様　これからも私たちを見守っていてください。

一日一組のプライベート空間

◇◇ 新参集殿 ◇◇

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社　検索